

自分の目で確かめ、考えよう！私たちはみんな同じで、みんな違う

所属	愛知県名古屋市立守山東中学校	実践者	佐藤 仁美
対象	中学1年生	時間数	4時間
場所	教室	実践教科	英語、道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの情報や、一部の情報だけにとらわれずに、自分の目で見たり、考えたりして、情報を取捨選択し、行動ができる。 ・日本とエチオピアの共通点に気づき、日本との違いを肯定的にとらえることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆ メディアからのエチオピア情報を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループ対抗3択クイズ」で、数字から見えるエチオピアの情報を知る。 ・「世界がもし100人の村だったら『エチオピア・アベティ』」を見て、テレビ番組を通してエチオピアの情報を知る。 ・「マラソンランナーエチオピア代表リサのデモ」についての新聞記事や、インターネット上の子どもたちのインタビュー記事などを通してエチオピアの情報を知る。 ・エチオピアのイメージ「エチオピアってこんな国①」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント「クイズ エチオピア」 ・「エチオピア・アベティ」の動画 ・デモについての新聞記事 ・インターネットの記事
	2	<p>◆ 先生が見てきたエチオピア情報を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が撮ってきた写真から見えるエチオピアの情報を知る。(フォトランゲージ) ・教師が撮ってきた動画から見えるエチオピアの情報を知る。 ・グループで、エチオピアと日本の「似ている所」を箇条書きする。 ・エチオピアのイメージ「エチオピアってこんな国②」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアで撮影した写真8枚とそれぞれの解説カード ・エチオピアで撮影した小学生のインタビュー、大縄に挑戦する動画
	3	<p>◆ エチオピアを体験しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がエチオピアで買ってきた物に実際に触ってみる。 ・「エチオピアってこんな国①」と「エチオピアってこんな国②」を比べ、気づいたことをグループでまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアの物(服、楽器、コーヒー豆、コーヒーセレモニーグッズ、ほうき、十字架、お金など)
	4	<p>◆ メディアリテラシーについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「インジェラってどんな食べ物？食べてみたい？」をテーマにグループで話し合う。 ・「メディアに惑わされずに真実を探るために大切なこと」を考える。(KJ法) ・「メディアに惑わされずに真実を探る、私の3ヶ条！」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「インジェラとは・・・」インジェラについて2パターンの情報が書かれたカード
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は教師の体験した話や写真、動画、実物等に触れて、エチオピアを身近に感じ、共通点を発見し、日本との違いも興味深いと肯定的にとらえることができた。 ・一部の情報だけにとらわれずに、自分の目で見たり、考えたりすることの大切さを体感できた。 		
課題	メディアリテラシーについて学んだ後、実際に何ができるかを考えるところで、もっと身近なテーマにも触れながら、じっくり考えるアクティビティがあるとさらに学習が深まったと感じる。		
備考	本単元を学習後、英語の授業でグリーティングカードを送ろうという単元があったので、エチオピアの子どもたちに年賀カードを送りたい生徒を希望制で募り、32通の年賀カードをエチオピアに送った。		

[授業実践の詳細]

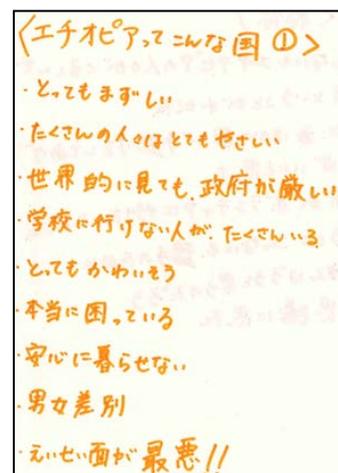
1 時限目「メディアからのエチオピア情報を知る」

この時限のねらい

- ・データ情報、テレビ、新聞、インターネットなどのメディアを通して、エチオピアを知る。

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「アフリカのイメージで自己紹介」。
- ② グループ対抗3択クイズ「クイズ エチオピア」。
・10 個の質問(場所、民族数、宗教、輸出品、一人当たりの国民総所得、就学率、識字率、失業率、安全な水の利用率、国旗の意味)に3択で答えることを通して、数字や基礎情報から見えるエチオピアの情報を知る。
- ③ テレビ番組から見えるエチオピアの情報を知る。
・テレビ番組を見て、学校に行かずに家族のために金を掘る 9 歳の少年の生活の様子を知る。
- ④ 新聞やインターネットから見えるエチオピアの情報を知る。
・4 つの記事(マラソンランナーのデモの新聞記事2種類、子供の水汲み、ジェンダー差別)の中から1人1つの記事を読み、グループで中身をシェアする。
- ⑤ 授業で感じたエチオピアのイメージ「エチオピアってこんな国①」を書き、グループでシェアする。
- ⑥ 授業の感想を書く。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ グループでクイズ形式にしたり、話し合いを多く取り入れたりしたことで、メディアを通しての難しい内容の情報も楽しく学ぶことができた。
- ◇ 一番子どもの反応が大きかったメディアはテレビで、やはり映像の力は大きいと感じた。

【生徒の感想】

- ・エチオピアの人々は、とても苦しく、貧しい状態で暮らしていることが分かった。
- ・学校に行けなかったり、家族のために自分が働かなくてはいけないなど、非常に過酷でかわいそうだなと思った。

3 使用した教材

- <教材1> エチオピアに関する3択クイズのパワーポイント「クイズ エチオピア」
- <教材2> テレビ番組「世界がもし100人の村だったら『エチオピア・アベティ』」
- <教材3> 朝日新聞 2016年8月23日「交差した両手 圧政への抗議 マラソン銀のリレサ」
- <教材4> 毎日新聞 2016年8月23日「掲げた抗議の『×』」
- <教材5> 「エチオピアラカ村の住民インタビュー」 <http://hope.or.jp/our-projects/their-stories/laka1/>
- <教材6> 「エチオピアで暮らすセーラムの物語」 <http://www.unicef.or.jp/special/water/torikumi.html>

2 時限目「先生が見てきたエチオピア情報を知る」

この時限のねらい

- ・教師が撮ってきた写真や動画を通して、エチオピアを知る。
- ・日本とエチオピアの共通点に気づき、日本との違いを肯定的にとらえることができる。

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「将来の夢で自己紹介」。
- ② 教師が撮ってきた写真から見えるエチオピアの情報を知る。【フォトランゲージ】
 - ・8枚の写真から1人2枚の写真を選び、どんな写真か想像する。そして、想像したことをグループに発表する。その後、解説カードを読み、正解をグループでシェアする。
- ③ 教師が撮ってきた動画から見えるエチオピアの情報を知る。
 - ・エチオピアの小学生のインタビュー動画を見る。内容は、学校は好きか、幸せか、それはなぜか、将来の夢は何か、時間があるときは何をして過ごすのかなど。その後、小学生が大縄に何度も挑戦する動画を見る。
- ④ グループで、画用紙にエチオピアと日本の「似ている所」を書く。
- ⑤ 画用紙をテーブルごとに回し、いいなと思った意見に☆を書く。
- ⑥ 授業で感じたエチオピアのイメージ「エチオピアってこんな国②」を書く。
- ⑦ 授業の感想を書く。

〈エチオピアってこんな国②〉

- ・人の関わりを大切にしている
- ・体力強が女子
- ・オシャレ
- ・文化を大切にしている
- ・明るく生き生きしている
- ・ホモコなしの心

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 教師が撮った写真を一度子どもたちに想像させることで、最初は「分からない」といった反応の生徒も、解説を読んだり聞いたりすることで「そうだったんだ！」と、新しい発見に驚いたり、グループの他の人の話を真剣に聞いていた。
- ◇ インタビュー動画を見せる前に、同じ質問を子どもたちにしたこと自分との共通点や違いに気付くことができた。

【生徒の感想】

- ・エチオピアも日本と一緒に、みんな元気でとてもフレンドリーだと思った。
- ・日本と似ているところと似ていないところがたくさんあって、おもしろいと思った。
- ・「みんなは幸せですか？」という質問に対して、みんな幸せと言っていたのが驚きだった。それぞれみんながしっかりと夢をもっていていい国だなと思った。
- ・エチオピアの国の印象がガラッと変わった。一度行ってみたいと思った。

3 使用した教材

- <教材7> エチオピアで撮ってきた写真8枚とそれぞれの解説カード
都会、ファッション、食べ物、コーヒーセレモニー、都会と田舎の道路、教会、リカルデント小枝、水を買うために一列に並んで待つ女性の様子
- <教材8> エチオピアで撮ってきた小学生のインタビュー動画、大縄に挑戦する動画



4 時限目「メディアリテラシーについて考える」

この時限のねらい

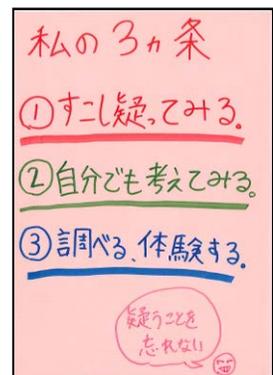
- ・メディアの情報や、一部の情報だけにとらわれずに、自分の目で見たり、考えたりして、情報を取捨選択し、行動ができる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 3時限目の授業の感想をまとめたプリントを読む。
- ② 「インジェラってどんな食べ物？食べてみたい？」をテーマにグループで話し合う。
 - ・インジェラの味について「おいしくて健康的」という情報を与えられた A チームと、「すっぱくて腐った雑巾のような味」という情報を与えられた B チームに分かれ、それぞれのチーム内でインジェラを食べてみたいかを話し合う。その後、AとBの混合グループで、インジェラを食べてみたいかを話し合う。気づいたことを話し合う。
- ③ エチオピアの食べ物「コロ」を食べながら、「他にもメディアや一部の情報にコントロールされていることはないか？」についてグループで話し合う。
- ④ 「メディアに惑わされずに真実を探るために大切なこと」を考える。【KJ法】
 - ・個人で上のテーマについてのアイデアを付箋に書く。その後、グループで、お互いの付箋に書いたことを発表しながら、模造紙にカテゴリー別に分ける。グループで出した内容をクラスにシェアする。
- ⑤ 「メディアに惑わされずに真実を探る、私の3ヶ条！」を書く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ インジェラを食べてみたいかの話し合いで、A チームは多数派のときは、食べてみたいと言っていた子どもも多かったが、混合グループになると、B チームの意見に吞まれて、ほとんどが食べたくないと答えていたことから、人はネガティブな情報に流されやすいと考えた。
- ◇ 今日の授業は難しいという声もあったが、グループで意見を出し合ったことで、考えが深まった様子で、全員がそれぞれの言葉で3ヶ条を書くことができた。



【生徒の感想】

- ・インジェラの情報について、初めは食べたくないと思ったけど、他の班の話聞いて少し考えが変わった。1つの情報で決めてしまったら、他の情報についての発見もできなくなってしまうから、すぐに信用しないことが大切だなと思った。
- ・色々な意見を持っている人がいるから、考え方を広くして情報を得ることが大切だと感じた
- ・人は目の前に出された情報を割と簡単に信じてしまうということが分かった。
- ・最初から決めつけるのではなく、実際に調べたり、いろいろな人に話を聞いたりしてから考えることが大切だなと思った。人間関係にも生かしていきたい。

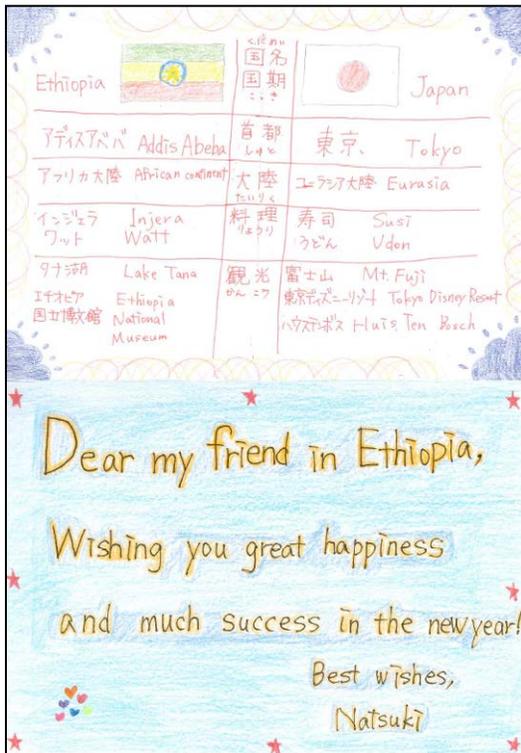
3 使用した教材

- <教材10> 3時限目の授業の感想をまとめたプリント
- <教材11> 「インジェラとは・・・」インジェラについて2パターンの情報が書かれたカード
- <教材12> エチオピアの食べ物「コロ」

■ 全体を通して

本単元を学習後、英語の授業でグリーティングカードを送ろうという単元があったので、エチオピアの子どもたちに年賀カードを送りたい生徒を希望制で募った。32 通の年賀カードが集まり、教員海外研修先で出会った現地 NGO の方や、青年海外協力隊の方々のご協力のもと、カードを送った。今後も何かしらの形で、生徒たちにエチオピアの子どもたちとの繋がりを感じさせ、世界を身近に感じられるような授業を行うことで、自分の目で見たり、考えたりして、情報を取捨選択し、行動ができる生徒を育成したい。

1 授業の様子



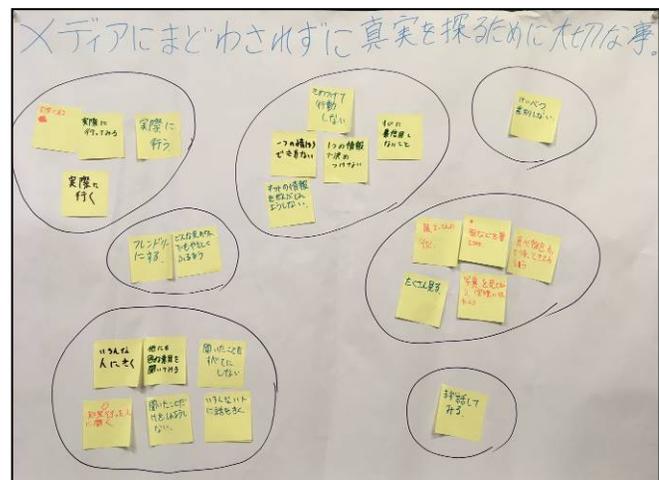
<年賀カード>



<「私の3ヶ条」を教室掲示し、いつでも見れるようにした>



<クイズ エチオピアの様子>



<「メディアに惑わされずに真実を探るために大切なこと」>

2 参考文献・資料

- 1) JICA ホームページ <https://www.jica.go.jp/>
- 2) ユニセフホームページ <http://www.unicef.or.jp/>
- 3) 外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ethiopia/>